

我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業のうち漁場形成・漁況予測事業

漁海況予報関連調査

久野正博・丸山拓也・岡田 誠・笹木大地・倉田恵吉

目 的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方 法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手によって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて、漁海況情報としてホームページ等で情報提供した。

結果の概要

詳細については令和元年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1 黒潮流路

黒潮流路は、平成 29（2017）年 8 月下旬に黒潮は大蛇行流路となり、令和元（2019）年度も前年度に引き続き大蛇行流路が継続した。

4 月から 6 月にかけて、蛇行北上部が伊豆諸島の西側で S 字状に変形した後、黒潮の一部が切離して遠州灘から熊野灘へ暖水が波及するパターンが繰り返し見られた。7 月に黒潮大蛇行の北上部は徐々に東へ移動し、7 月末は八丈島に近づいた。8 月に黒潮は一時的に潮岬へ接近し、黒潮大蛇行は 9 月頃に一時的に弱まったが、その後すぐに再発達した。10 月以降は大蛇行流路が安定するようになり、蛇行北上部は伊豆諸島の西側に位置し、断続的に黒潮内側反流が形成された。その後も年度末まで、典型的な大蛇行流路が継続した。

2 熊野灘の海況

熊野灘沿岸の水温（図 1）は、年度を通して平年より高め基調で経過し、沿岸域を中心に記録的な高水温も頻繁に観測された。

4 月は小暖水渦の南下に伴って、100～200m層を中心

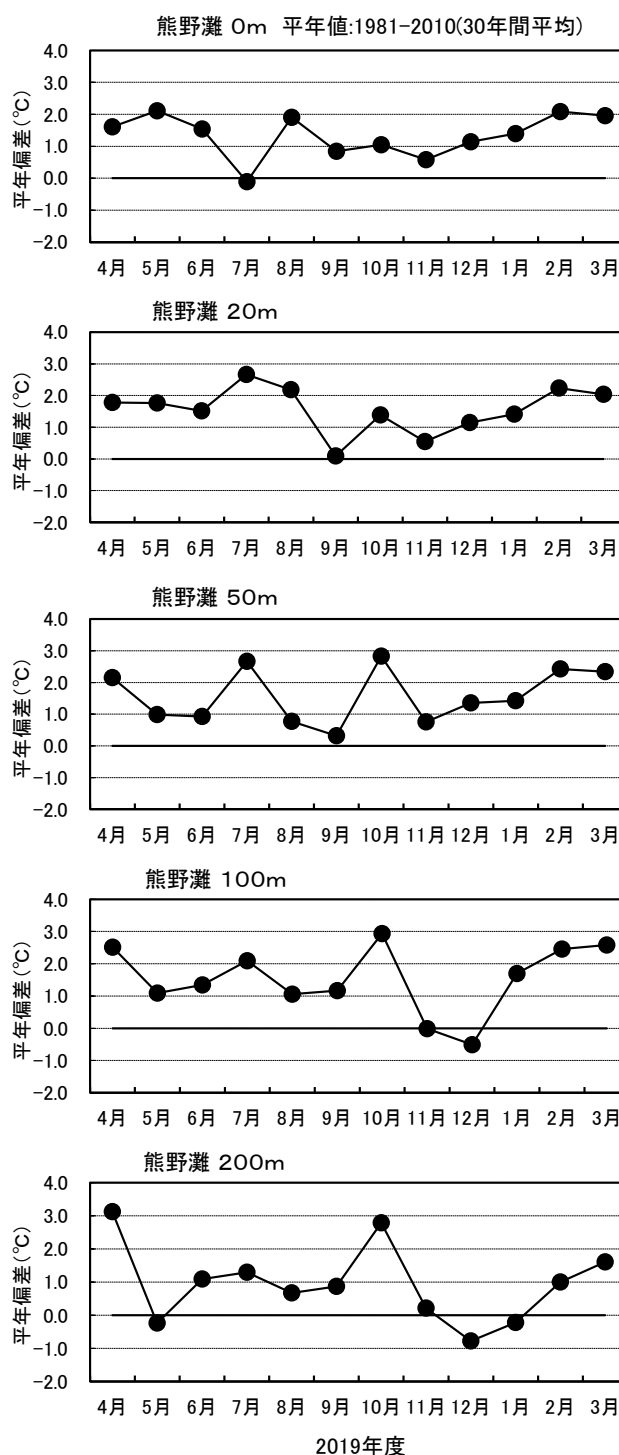


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の平年偏差

に4月としては記録的な高水温となった。4月下旬は表層では昇温が停滞し、極端な高水温は解消した。5月は記録的な高水温が解消し、表層～100mで平年並～やや高め、200mではほぼ平年並に落ち着いた。ただし、表面では気温の影響で高水温が顕著となった。6月上旬は熊野灘への暖水波及が弱まり、水温は平年値に近づいた。中旬頃から黒潮内側反流が形成され、再び高水温傾向となった。7月は天候の影響で表層水温は中旬頃まで平年並～やや低めであったが、下層では顕著な高水温が継続した。7月下旬は表面でも昇温が顕著となった。8月は熊野灘への黒潮内側反流の流入は不明瞭であったが、表層を中心に顕著な高水温となった。8月下旬は表面で降温が進んだ。また、8月末には顕著な沿岸湧昇が発生した。9月は残暑の影響もあり、沿岸の表層を中心に高水温が続いた。9月下旬は黒潮内側反流がやや強まり、高潮位傾向となった。10月は高水温が継続する中、下旬には小暖水渦が弱まりながら熊野灘沿岸を南下し、下層を中心に顕著な高水温となった。11月は極端な高水温は解消したものの、黒潮内側反流が継続的に流入した影響で、高水温傾向が続いた。12月は上旬に降温が進んだものの、中旬に黒潮内側反流が強まった影響で19℃台から22℃前後に昇温し、下旬は熊野灘沿岸で記録的な高水温となった。1月から2月は沿岸域を中心に高水温が継続した一方で、沖合域の下層では冷水塊の影響を受けて低水温が観測された。内湾では暖冬の影響を強く受けて、1月から顕著な高水温が継続した。3月も前半は顕著な高水温傾向であったが、月後半はやや降温して、月末には平年値に近づいた。

浜島の定地水温は、冬季の極端な高水温が徐々に解消傾向となったものの、4月も高め基調が継続し、4月下旬にかなり高め、5月は平年並～高め、6月も平年並～高めで経過した。7月は中旬まで平年並～2℃低め、下旬は平年より1～2℃高めとなった。8月から9月は平年より1～2℃高め、10月上旬は2～3℃高め、10月中旬から11月上旬は1～2℃高めで経過した。11月中旬から下旬は、平年並～やや高めとなった。12月は上旬に平年値を下回ることもあったが、中旬から顕著な高めとなり、下旬には平年を4～5℃前後も上回る記録的な高水温となった。1月から3月も平年より2～3℃高めの高水温が続き、同日過去最高を更新した日が頻発した。

3 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、4月から5月は全層でやや高め、6月は表層で平年並、底層でやや高め、7月は表層でやや高め、底層で高めであった。8月は表層でかなり高め、底層でやや高め、9月は表層で高め、底層でやや低めであった。10月は表層でかなり高め、底層で高め、11月は表層～底層でやや高めであった。12月は平年並～やや高め、1月は平年より高め、2月から3月は高め～かなり高めで経過した。

伊勢湾の塩分は、表層では4月はやや高め、5月はかなり高め、6月はやや高め、7月はやや低め～高め、8月から9月はかなり低め、10月はやや高めで経過し、11月以降は3月までほぼ平年並であった。底層の塩分は、4月から6月までほぼ平年並、7月は平年並～低め、8月は平年並、9月はやや高めで経過し、10月以降は3月までほぼ平年並であった。

伊勢湾内の底層における貧酸素水塊の分布については、6月12日の調査時に湾中央部で2ppm以下の貧酸素水塊が形成され、7月17日の調査時には2ppm以下の貧酸素水塊が拡大し、湾中央部で1ppm以下も観測された。その後、1ppm以下の貧酸素水塊は10月まで観測された。

白子の定地水温は、4月上旬は平年並、中旬は平年並～やや低め、下旬は高め、5月上旬は平年並～低め、中旬は高め、下旬はやや高め～かなり高め、6月上旬は高め、中旬は平年並～やや低め、下旬は平年並～高めで経過した。7月上旬は平年並、7月中旬は平年より1℃程度低め、7月下旬は1℃程度高め、8月上旬から中旬は2～3℃高めで経過した。8月下旬は平年並、9月は1℃程度高め、10月上旬から中旬は1～2℃高め、10月下旬から11月上旬は平年並～やや高めで経過した。11月中旬から下旬は平年より2℃程度高めであった。12月は上旬に平年並～やや低めであったが、中旬から下旬は平年より1℃前後高めで経過した。1月から3月は、暖冬の影響を強く受けて平年より1～3℃高めの高水温が続き、同日過去最高を更新した日が頻発した。

関連報文

三重県（2020）：令和元年漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）